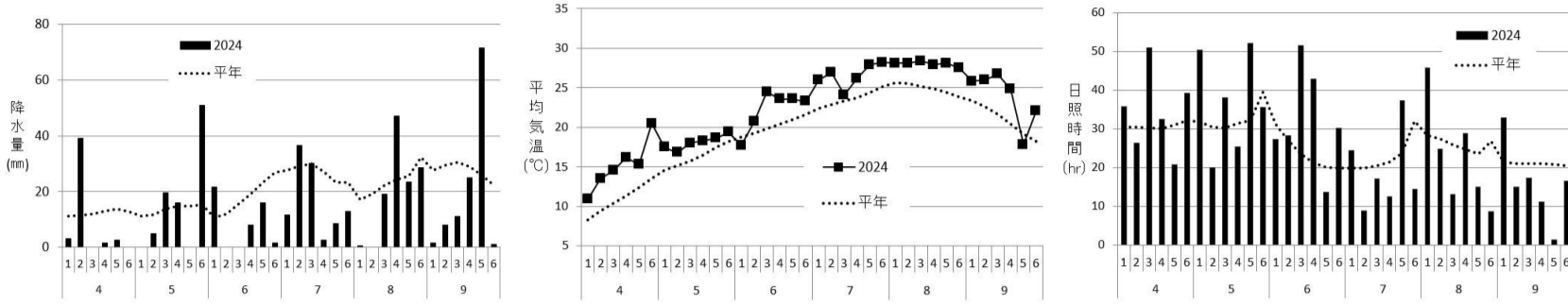


水稻現地栽培指導会資料（水田収穫後の管理）

福島県県北農林事務所伊達農業普及所

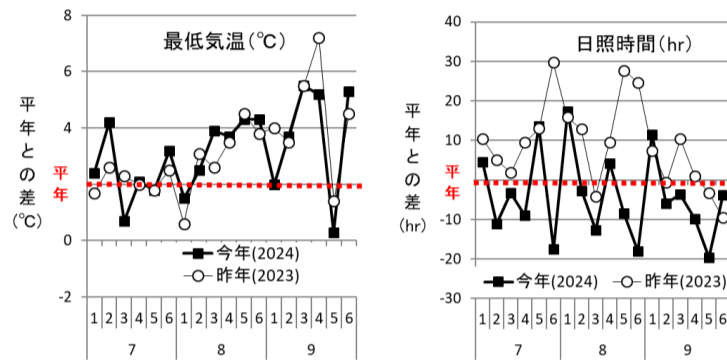
1 気象経過（アメダス梁川・4月1半旬～9月6半旬）



(1) 気象の特徴

- 4月：高温
- 5月：高温多照
- 6月：高温多照、記録的少雨
- 7月：高温少雨、少照
- 8月：高温多雨、少照
- 9月：高温、少照

梅雨入り：6/23
(平年+11日)
梅雨明け：8/1
(平年+8日)



最低気温は昨年と同様に平年より高かった。
日照時間は昨年及び平年より少なかった。

2 水稻の生育概況

(1) 生育ステージ別の概況

- 播種～育苗期：播種盛期は4/16(平年並)であった。4月から高温の影響で苗が徒長ぎみで一部、田植作業を早くする農家もあった。また、高温の影響により細菌病(立枯)が平年より多く発生した。
- 田植～活着期：田植え盛期は5/18(平年並)であった。田植え終期は6/8(平年+4日)となり、大規模農家を中心に田植え作業が長期化している。田植え後は速やかに活着し、その後の生育も良好であった。
- 分けつ期：6月は平年よりも気温が高く、草丈・茎数の生長は促進された。また、高温の影響により表層剥離やアオミドロ等の発生が平年よりも早く、発生量も多かった。中干しは6/20頃から7月上旬にかけて実施された。
- 出穂期：高温の影響により、出穂始期7/25(平年-8日)・出穂盛期8/3(平年-6日)ともに早まった。
- 登熟期：成熟期は出穂後の高温影響で、平年より14日昨年より8日早い9/9だった。このため、収穫作業も平年より早く推移している。「コシヒカリ」を中心に倒伏の発生が早く、その後の降雨で増加した。出穂後の降雨の影響で穂もちが散見される。出穂期以降の日平均気温は平年より高いが最高気温は昨年より低い。このため、高温登熟による白未熟粒は昨年より少ない(9月末現在)。ノビエ、クサネム等の発生が出穂以降特に目立った。

表1 作柄判定ほ生育調査結果(1)

品種名	調査地点	年次	田植日	植付株数(株/m ²)	6月20日				7月5日				7月15日			
					草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色		草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉色	
							葉色板	SPAD502			葉色板	SPAD502			葉色板	SPAD502
コシヒカリ	伊達市 梁川町大関	本年	5/6	15.9	45.8	735	4.5	40.5	62.6	584	2.7	29.7	80.2	532	2.7	32.4
		前年	5/13	15.9	42.7	571	4.0	43.4	67.4	767	3.4	34.0	81.6	660	2.2	34.0
		平年	5/16	16.5	36.7	465	3.9	40.1	56.1	623	3.6	37.9	68.7	586	2.8	34.7
		平年比	-10	-0.5	125%	158%	0.6	0.4	112%	94%	0.6	0.4	117%	91%	-0.1	-2.3

表2 作柄判定ほ生育調査結果(2)

年次	出穂期(月/日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	成熟期(月/日)
本年	8/1	88.6	17.7	352	9/5
前年	8/7	92.9	19.6	425	9/16
平年	8/10	88.9	18.7	396	9/22
平年比	-9	99%	95%	89%	-18

表3 伊達管内の主要品種出穂状況(月/日)

品種	本年	前年	平年	平年差
天のつぶ	7/30	8/1	8/3	-4
コシヒカリ	8/4	8/7	8/10	-6

表4 伊達管内の主要品種出穂状況(月/日)

品種	本年	前年	平年	平年差
天のつぶ	9/6	9/9	9/11	-5
コシヒカリ	9/9	9/17	9/23	-14

3 本田の病害虫、雑草等の発生状況

(1) 病害

- ・ ばか苗病 : 平年よりやや少ない
- ・ 葉いもち : 平年よりやや少ない
- ・ 穂いもち : 平年並
- ・ 稲こうじ病 : 平年並
- ・ 紋枯病 : 平年よりやや少ない
- ・ ごま葉枯病 : 平年よりやや少ない

(2) 虫害

- ・ イネミズゾウムシ : 平年並
- ・ イネドロオイムシ : 平年並
- ・ ニカメイチュウ : 平年並 (発生は微)

- ・ イネアオムシ (フタオビコヤガ) : 平年よりやや少ない
- ・ イネツトムシ (イチモンジセセリ) : 平年よりやや少ない
- ・ イナゴ・クサキリ類 : 平年よりやや少ない
- ・ 斑点米カメムシ類 : クモヘリカメムシが増加

(3) 雑草発生状況と多発の要因

- ・ クサネム及びヒエの激発。
- ・ 漏水田、用水等から水漏れ、田面の露出等、水管理が不十分。
- ・ 初中期一発剤の過信、中・後期剤との体系防除が必要。

(4) その他管内で見られる症状

- ・ 倒伏の発生が、8月中旬以降コシヒカリ等で徐々に発生し平年より多い。

4 収穫後の管理

(1) 土づくり

○ 有機物の投入

- ・ 稲刈り後、分解促進資材 (例: ワラ分解キング: 10 kg/10a) とともに浅めにすき込む (5~10 cm)。
※気温が 15°C以上 (10月中旬頃) の時に行うと分解が早く進む。
- ・ 稲わらをほ場外に持ち出した場合は、たい肥 1 t/10a を散布し、耕うんする。

○ 土壌改良資材の投入

- ・ けい酸資材は、根の酸化力が増進され病害虫や土壌還元効果に期待されるため適切に施用する。
- ・ ようりんは、りん酸、けい酸、苦土、石灰がバランスよく含まれているので土作り肥料として施用する。

肥料名	成分(%)	施肥量(/10a)	備考
田んぼマスター	P4、K10、Mg2、Mn1、Si14、Fe10	60~100kg	老朽田対策に効果あり
ケイカリンアップ	P7、K6、Mg3、Si18	60kg	登熟、食味向上に期待
粒状ようりん	P20、Mg12、Si20、Fe4	40kg	食味向上に期待

(2) 雑草対策

○ 除草剤による化学的防除 (ほ場例: クログワイ等の多発生ほ場)

- ・ 刈取後、雑草が枯れる前に非選択性除草剤を散布する。
- ・ 収穫部位をやや高くしたり、再伸長後の茎葉部 (20 cm以上) に除草剤を散布する。
- ・ 低温では効果が劣るので生育期 (葉先が黄化する前) に散布する。

除草剤名	対象雑草	使用量(/10a)	散布液量(/10a)	使用時期	使用回数
ラウンドアップ マックスロード	一年生雑草	200~500mL	通常散布50~100L	雑草生育期	1回
	多年生雑草	500~1,000mL	少量散布5~50L		
タッチダウンiQ	一年生雑草	250~500mL	25~100L	水田作物刈取後 (雑草生育期)	1回
	多年生雑草	500~1,000mL		水田作物刈取後 雑草再生時	
	オモダカ、クログワイ、 キシウスズメノヒエ				

注: 上記の使用方法は令和6年10月2日現在の農薬登録に基づき記載しています。

○ 耕うんによる物理的防除 (ほ場例: クログワイ等の少発生ほ場)

- ・ 土壌が乾燥するほ場では、秋冬期に数回耕うん (目標 15 cm) して、塊茎を損傷させ寒さにさらす。

◎収入保険は、令和6年1月以降の契約からより充実した制度に!

加入に必要な青色申告実績年数が短縮されます。
新たな補償タイプが新設されました。
基準収入の算定の際に甚大な気象災害による影響を補正する特例が新設されました。

◎「地域計画の策定」を推進しています。

地域の将来について話し合いませんか?
地域で話し合い農地の利用・保全等を進めるため、市町、農業委員会、JA、土地改良区、農地バンクなどが一体となって、「地域計画の策定」を推進しています。